

## シンポジウム 大学における男女共同参画の現状と課題 開催 2013年8月1日

「アジアのリーディングユニバーシティ」として、世界に貢献する早稲田大学であり続けるために策定された改革案「Waseda Vision150」の核心戦略の中に「男女共同参画・ダイバーシティの推進」プロジェクトがあります。

本プロジェクトは、8月1日、大隈会館会議室において、標記シンポジウムを開催しました。

開会に際し、男女共同参画担当齋藤美穂理事より、150周年を迎える2032年を見据えた中長期計画の大きな視点として、男女共同参画の推進が掲げられており、そのためにどう課題解決していくかを考えていく記念すべき第1回目のシンポジウムであり、初回にふさわしい先生を東北大学よりお迎えできたと挨拶がありました。川田宏之男女共同参画推進委員会委員長・男女共同参画推進室長により進行されました。



▲ 齋藤美穂理事の開会挨拶



◀ 進行は川田宏之男女共同参画推進室長

「男女共同参画 100年の東北大学 - その現状と課題 - 」と題して、女子学生の受入れの先駆である、東北大学金属研究所米永一郎教授（男女共同参画委員会副委員長・女性研究者育成支援推進室副室長）より講演を賜りました。

2001年には学内に男女共同参画委員会を設置され、2006年より「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」、2009年より「杜の都ジャンプアップ事業」として進められたプロセスが紹介されました。育児・介護支援、環境整備、次世代支援のプログラム、研究リーダー養成・研究スタイル確立支援、新ネットワーク創生プログラムと、さまざまな取組みの成果が示されました。ことに、学内保育園の設置、沢柳フェローというメンター制度導入による次世代育成や、サイエンスエンジェルと命名された女性研究者 230名超の組織化がアカデミックポストにも多く繋がっていると、東北大学の先進的な取組みが紹介され、どう施策を進めていかれたかの講演が40分にわたりありました。

講演後の質疑応答では、女性教員を増やすため、男女共同参画のワーキンググループがどのようにつくっていかれたかといった質問がなされました。

続いて、「男女共同参画と学術の発展 - 高等教育におけるジェンダー視点の有用性について - 」と題して、本学法学学術院浅倉むつ子教授（男女共同参画推進委員会前委員長・男女共同参画推進室前室長）より講演がなされました。学術の世界における男女共同参画の意義に始まり、日本学術会議における男女共同参画の歩み、学術の世界における環境整備がどうなされてきたか、学問研究視点からのジェンダー研究の進化による男女共同参画の促進、最後に、本学の男女共同参画の取組みの概要と今後の課題の提示で、講演が締め括られました。



▲ ご講演くださった  
米永一郎東北大学教授



▲ 学術における男女共同参画を  
繙かれる浅倉むつ子教授

質疑応答では、女性教職員におけるリーダー育成や、管理職比率をどう上げるか等、多くの質問がありました。浅倉教授から、女性リーダーの実質数が増えることで女性の研究や仕事がしやすくなる、学会議においても、女性比率を増やすことが学問の向上に必要とされているので、女性の活躍を阻むハードルはないと回答されました。

閉会にあたり、橋本周司常任理事より、東北大学の先進モデルに学ぶところは多く、今後何を考えていくべきかのヒントになったと挨拶がありました。本質的に男女共同参画は社会のベネフィットであり、その推進の積極的意味を打ち出していきたい、数値目標とともに本質的な目標をもって歩んでいきたいと結ばれました。

男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクトでは、今後も学内における男女共同参画への意識啓発、男女共同参画推進ための取組みのPR等に努めていきます。

\*本シンポジウムの模様は、Course N@vi「男女共同参画推進室提供講座」からご覧いただけます。



▲ 閉会挨拶は橋本周司常任理事